

令和7年度 三島商工会議所 経営発達支援計画 評価会議 報告

1. 日 時 令和8年9月25日（金）15：00～16：30
※事業継続力強化支援計画の評価会議も併せて実施した。
2. 場 所 三島商工会議所 4階会議室A
3. 評価委員 中山 勝 氏（学校法人静岡学園 静岡産業大学 特任教授）
（順不同） 松 浦 拓 哉氏（静岡県信用保証協会 沼津支店 保証第一課 課長代理）
岩 崎 圭之輔氏（静岡県事業承継・引継ぎ支援センター サブマネージャー）
玉 置 久 倫氏（中小企業診断士玉置事務所 所長）
佐 野 千 尋氏（三島信用金庫 元気創造部長）
4. 出 席 者 上記3. 評価委員4名（中山勝氏は書面決議）
三島市より、小糸 哲治 氏（産業文化部 商工観光まちづくり課 課長補佐）
三島商工会議所より、小島 信之（中小企業相談所 所長）、
石渡 智英（経営支援課 課長）、
麻谷 暢恵（経営支援課 課長補佐）、塩谷 洋司（経営支援課 主幹） 計9名
5. 評価方法 事務局から令和7年度の三島商工会議所の経営発達支援計画の事業等の実施状況及び成果について説明をした。
その後、質疑応答を経て、各項目及び計画全体について委員5名による評価を受けた。
6. 評価結果
 - (1) 評価基準
 - A（4点）：目標を十分達成している（達成度：100%）
 - B（3点）：目標を概ね達成している（達成度：80%～100%未満）
 - C（2点）：目標を半分程度しか達成できていない、どちらかという達成できていない（達成度：30%～80%未満）
 - D（1点）：目標を全く達成できていない（達成度：30%未満）
 - (2) 評価

【総合評価】 4. 0点／4点 （内訳：A評価 5名）

対話と傾聴による課題設定型伴走支援を本格展開し、初年度として売上・利益等の各種目標を大きく上回る成果をあげ、地域企業の持続的発展に大きく貢献したと高く評価された。今後は計画策定実績等の定量的成果にとどまらず、郵送・メール回答等本音が引き出せる調査方法を用いて「支援後の事業者の満足度や売上・客数の変化」を適切に検証する仕組みの導入が求められる。また、金融機関や他機関での計画作成状況を事前確認して重複支援を防ぐとともに、目まぐるしい環境変化に対応して支援計画を常にアップデートしていくことが期待される。

【各項目の評価】

分類	項 目	評価※	委員からのコメント
	1. 地域の経済動向調査に関する事	3.8	景況調査等の継続実施により地域経済の動向が適切に把握・活用されている。今後は傾向や変化の予兆を支援施策へ反映させることや、消費動向調査の再開、事業者への情報発信力のさらなる向上が期待される。

分類	項 目	評価※	委員からのコメント
Ⅰ. 経営発達支援事業	2. 需要動向調査に関すること	3.8	会員ニーズや顧客視点に立ったマーケットリサーチや個別伴走支援が着実に実施されている。今後は顧客ニーズの把握を第一歩とし、動向調査結果を個社の事業計画や具体アクションへ継続活用することが望まれる。
	3. 経営状況分析に関すること	4.0	全職員での巡回や専門家派遣により目標を大幅に上回る分析実績があがっている。指導員の支援負荷増を配慮し、経営課題の重要度・難易度に応じた優先順位付けや実行用アクションプラン策定が望まれる。
	4. 事業計画策定支援に関すること	4.0	創業・事業承継、補助金申請など幅広いニーズに対応した手厚い計画策定支援が高く評価された。指導員の負軽減に向け、事業者自身による策定とブラッシュアップの意識付けや DX・AI 支援の高度化が望まれる。
	5. 事業計画策定後の実施支援に関すること	3.8	目標を大きく上回るフォローアップの実施と成果創出への結びつきが高く評価された。一方で訪問回数等の維持が物理的に難しいため、課題の程度に応じた濃淡をつけるなど持続可能な伴走手法の検討が望まれる。
	6. 新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること	3.2	個店プロモーション支援により売上・利益目標達成など高い成果があがっている。支援件数が目標に達しなかった側面もあるため、口コミ効果や金融機関等の紹介活用、指標の見直しなど展開方法の工夫が提案された。
Ⅱ. 支援力向上	1. 事業の評価及び見直しをするための仕組みに関すること	3.8	PDCA サイクルの構築や進捗確認、目標以上の頻度での取り組みが高く評価された。なお、評価会議の実施時期について、年度終了後から早期（半年以上の遅れを改善）に開催できるよう見直すことが要望された。
	10. 経営指導員等の資質向上に関すること	3.8	計画的な外部研修参加や OJT・内部研修が適切に実施されている。今後は DX・AI 関連への取り組み推進や、指導員会議等での支援事例の振り返り・共有を継続し、実践的な伴走支援能力を高めることが期待される。
	11. 他の支援機関との連携を通じた支援ノウハウ等の情報交換に関すること	4.0	事業承継・引継ぎ支援センター等との連携や各種会議への出席が評価された。オフィシャルな会議にとどまらず、担当者レベルで日常的かつ密に情報交換ができる信頼関係の構築を継続することが推奨された。

※評価の値は、各委員の評価点数の平均値（満点は 4 点）となる。なお、C 以下の評価を付けた委員はいなかった。